

## 「2016 年 神戸サミット」の開催誘致

2016 年（平成 28 年）に日本で開催が予定されている主要国首脳会議（サミット）の神戸市での開催に向け、兵庫県・神戸市が連携して誘致への取組みを進める。

### 1 神戸市で開催する意義

#### ① 古くからの国際交流の蓄積を活かした多文化共生を発信

神戸は、古来、中国との交易の窓口であり、1868 年の開港からは西洋の文化、産業を取り入れ、全国に波及させる国際貿易都市として、我が国の近代化を牽引してきた。

このように人・もの・文化の交流を礎として形成された神戸の街には、西洋建築が並ぶ旧居留地や横浜と並ぶ大規模な中華街、日本最初のイスラム寺院など、多文化の共生が培われている。こうした神戸に根差した多文化融合は新たなグローバル社会の未来を拓く鍵となる。

#### ② 阪神・淡路大震災からの復興で蓄積した防災・減災文化の普及

1995 年の阪神・淡路大震災から復興を遂げた神戸の姿を世界にアピールするとともに、各国から受けた多くの支援に対する感謝を発信する。

この復興の過程で神戸の地には、国連国際防災戦略 (UNISDR)、国際防災復興協力機構 (IRP)、国連人道問題調整事務所 (OCHA)、防災科学技術研究所 E-ディフェンス（実大三次元震動破壊実験施設）、県立人と防災未来センター等の機関が集積し、世界的な防災研究拠点を形成している。世界中で大地震や暴風雨による自然災害が頻発する今、この集積を最大限に発揮し、世界各地の復旧・復興に貢献し、防災・減災文化を広める。

#### ③ 医療産業都市をはじめ最先端の科学技術基盤を世界と共有

震災復興プロジェクトとしてスタートした神戸医療産業都市は、270 社以上の医療関連企業等が集積する日本最大の医療クラスターとして発展している。

また、国家基幹技術プロジェクトであるスーパーコンピュータ「京」と X 線自由電子レーザー「SACLA」をはじめ、SPring-8 や発生再生科学総合研究センター、先端医療センター、ライフサイエンス技術基盤研究センターなど世界最先端の科学技術基盤が集積している。これらの施設群を世界で共有し、創薬や医療機器開発はもちろん、環境・エネルギーなどの幅広い産業利用に活用する。

#### ④ 魅力ある海上文化都市を拠点とした新たな世界との結節点の形成

六甲山と瀬戸内海という豊かな自然に抱かれ、港湾貿易を核に発展してきた港町神戸は、ポートアイランド、六甲アイランドという新都市核の創造により「海上文化都市」という新たなまちづくりのコンセプトを打ち出した。さらに国際コンテナ戦略港湾への選定、西日本のハブ機能を担う関西国際空港、大阪国際空港、神戸空港の 3 空港連携により、新たな国際ネットワークが形成されつつある。これらの基盤を生かし、「東京オリンピック・パラリンピック」に続き、「関西ワールドマスターズゲームズ 2021」をはじめとする国際イベントを開催し、今後とも日本と世界との結節点としての機能を高めていく。

### 2 今後の取組み

神戸サミットの開催誘致に向け、兵庫県・神戸市、並びに神戸商工会議所をはじめとする地元経済界など、多くの関係機関等が連携して「神戸サミット誘致推進協議会」を設置し、詳細な開催プランの検討や国・関係機関等に対する誘致活動を行っていく。

平成 26 年 8 月 29 日に、「神戸サミット誘致推進協議会」第 1 回を開催する。